

社会的活動報告

《おすそわけマスク》の配布

生活科学学科 生活デザイン専攻 准教授 前田 博子

□森田駅内の夢ギャラリー森田にてマスクのおすそわけを
2回実施した。会期日程は下記の通りである。

□会期：2020年9月10日(木)～10月5日(月) (図1)

□会期：2020年11月23日(月)～12月14日(月) (図2)

マスク制作について、使用した生地と糸は森田に住んでいた今は亡き女性から譲り受けたものを使用している。いつか使おうと取っておいた生地でマスクを作ることを見知らぬ女性の意思のように感じたためである。仁愛女子短期大学に置いて《おすそわけマスク》と差別化するため、学生が授業で考えた柄を蛍光色の顔料でシルクスクリーンプリントしたものをマスク生地として使用した。アコちゃんとももこ(図3)や動物の顔になる柄など(図4)、バリエーションを多く、色彩は多彩とした。

1回目は351枚、2回目は663枚を設営した。

本研究の目的は見知らぬ女性が所有していた生地や資材を共有することを目的としており、ものそのものの共有と布が本来持っている性質や目的、機能を共有することである。その結果、着用者である他者(駅の利用者)と再生産者であるわたしの間には見知らぬ女性の遺品そのものとそれらを集めた彼女の意図や想いが共有されていた。

見知らぬ女性から預かった布、衣は他者と再生産者との間に介される物であると同時に、思想を共有するアイテムとして動員されている。これらは心理的、身体的に身を守り、社会(マイクロコミュニティ)へ解放されるものとなった。

マスクが少なくなっている頃合いを見計らってマスクを追加しにいくと、いつも必ず綺麗に整えてあった。駅員の方か駅の利用者の方かはわからないが、《おすそわけマスク》を丁寧に扱ってくださっていた。このことは見知らぬ女性の意思と私の手芸行為への互酬性であった。これらは地域コミュニティ形成における新たな方法であると感じている。



図1 1回目展示風景



図2 2回目展示風景



図3 アコちゃんとももこのプリント柄



図4 動物の顔になるプリント柄